

令和元年 月発行 No.31-4 (豚)
埼玉県川越家畜保健衛生所
電話 : 049-225-4141
FAX : 049-226-9653
緊急携帯 090-7191-3473
Eメール : r254141@pref.saitama.lg.jp
(夜間、土日祝日は緊急携帯に転送)



家畜衛生だより

◆今年も早めの暑熱対策を！

昨年熊谷市では、国内観測史上最高となる41.1°Cを記録しました。また、猛暑日だけでなく熱帯夜となった日も多く、家畜も人も体調管理等に気を遣ったことと思います。

梅雨が明けると気温が急激に高くなることが予想されます。豚の最適温度は22°Cといわれており、暑熱によるストレス下では種雄豚で精子をつくる機能の低下、母豚で受胎率が低下等が生じます。30°C以上の高温に曝されると、体脂肪融点の上昇が起り肉質にも影響します。

比較的涼しい今のうちに畜舎環境の見直しを行いましょう！

- 飼育密度や通風換気を見直し、体感温度の低下に努めましょう。
- 母豚は冷え過ぎによる流産を防止するため、風や水から逃げられるよう配慮しましょう。
- 新鮮な水を十分に給与しましょう。
- 直射日光が当たらないよう、すだれやカーテンの位置を確認しましょう。
- こまめに家畜の観察を行い、健康状態の確認をお願いします。

飼養している家畜に異状が見られたら、速やかに連絡してください！

【川越家畜保健衛生所】

裏面も見てくださいね！

住 所：川越市大字石田152

TEL : 049-225-4141

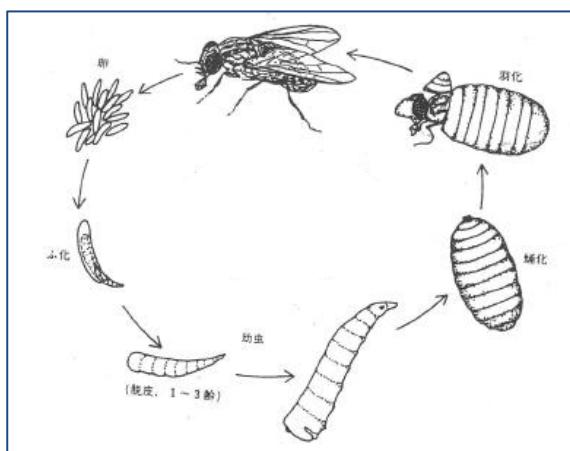
平日 17:15 以降と土日祝日の場合、自動で緊急携帯電話に転送されます。



◆ハエの防除対策を実施しましょう

ハエは、春と秋をピークに増加します。ハエの発生は、近隣住民からの苦情の原因になるばかりでなく、病原菌やウイルスの媒介、ストレスによる家畜の生産性の低下にもつながります。

気温が低いうちに除糞や清掃で越冬している卵、幼虫、さなぎ、成虫を排除し、数を減らしておきましょう。



成虫は1度に100個程度の卵を産みます。また、気温が上がると、卵から成虫になる期間が短くなり、気温20度では約20日かかりますが、気温30度では10日間で成虫になります。

1 環境対策

①除糞と清掃

発生源となる家畜のふん尿やこぼれた飼料などは、こまめに除糞や清掃を行いましょう。

②発酵熱による幼虫駆除

堆肥化の際は適正な水分調節と発酵熱(60°C以上)を心がけましょう。

③畜舎の乾燥

ハエの卵は乾燥した場所では死滅します。換気と通気をしっかりと。



清掃された畜舎の例

2 薬剤による殺虫

①IGR剤（昆虫発育抑制剤）はハエの密度を低下させるのに効果的です。幼虫の発生する場所に散布します。

②毒餌（ベイト剤）は誘引剤と殺虫剤を混ぜて調整します。成虫に有効です。

※同系統の薬剤連用は避け、異なる系統の薬剤をローテーションして使用しましょう。